

文化人たちの 文学碑・歌碑

水郷観光の足跡



▲与謝野晶子の短歌碑(津宮)

与謝野晶子の短歌碑

津宮地区の利根川沿いの堤防の上に、与謝野晶子の短歌碑が立っています。与謝野晶子は、日露戦争に出征した弟に宛てた長詩「君死にたまふことなかれ」を詠んだことで

有名な明治から昭和期の女性歌人です。短歌碑のあるこの辺りはかつて「津宮鳥居河岸」といって、高瀬舟、木下茶舟など多くの船舶が出入りしてにぎわった河港でした。明治44年(1911)、与謝野晶子ここに泊り、津宮鳥居河岸の短歌を詠んでいます。**人気観光地・水郷**

江戸時代後期以降、庶民の娯楽や文化が盛んになり、なかでも寺社参詣を兼ねた行楽の旅が流行しました。江戸から近い手軽な旅として、神奈川県の江の島や大山阿夫利神社などの参詣と並んで、鹿島神社、香取神社、息栖神社を巡る三社詣と水郷の船遊びが

人気を集めました。こうした

水郷観光は、浮き沈みはありましたが、明治、大正、昭和と代表的な人気レジャーの一つでした。

水郷を詠んだ文化人たち

こうしたなかで、江戸・東京から、学者や歌人などの文化人が数多く訪れて、水郷を題材とした作品を残しています。江戸時代では、「利根川図誌」で有名な赤松宗旦をはじめとして、俳人として著名な松尾芭蕉や小林一茶のほか、明治時代以降も、若山牧水の「水郷めぐり」、北原白秋の「水村の春々十六島」を代表に、野口雨情、伊藤左千夫、正岡子規、高浜虚子など多彩な文学者や歌人が訪れています。市内には、こうした文化人たちの足跡を示す文学碑や歌碑が多数残されています。

問い合わせ

伊能忠敬記念館 ☎(54) 11118